



# 総長予定者の宝金氏



宝金清博氏

本学第20代総長の予定者が前北大病院長(2013~18年度)の宝金(こうきん)清博特任教授に決まった。近く、文部科学相が任命し、正式に就任する。病院長時代の実績は折り紙付きで、学内からは公約の実現に期待する声が上がる。

宝金氏は2日、総長選考会議(議長:石山喬氏)が選出した。宝金氏のほか、笠原正典理事・副学長・横田篤教授が候補者だったが、同会議委員の投票で宝金氏が過半数票を集め手となつた。

もともと合議で決定する予定だったが、決めきれず投票に。会議は約4時間に及んだという。

同会議は構成員とのコ

ミュニケーション能力や経営の提案力を評価した。

宝金氏は「再生」と「発展」と題して、指定国立大

学校への申請や、不動産

運用などによる経営力の強

# 公約実現に学内から期待

究などの中心的役割を担う

病院を医療法上に位置付け

る仕組み。論文の数や質な

どが要件として求められ「東

京大や京都大のようにはい

かない」(白土教授)と本学

にはハードルが高いとの見

方があつたという。

しかし、宝金氏は「頑張

化といった政策を提案して

いた。国からの交付金のう

ち実績により配分される額

が減つたことなど17年から

の現執行部の課題を指摘。

「いまの国立大学は自分の

力で稼ぐ方向にある」

との認識を持ち、「新しい方

向に向かないといけない」

との考え方がある。

## 北大でシカ目撃相次ぐ 珍しいメスの可能性も 専門家「きちんと対処を」

宝金氏は2日、総長選考会議(議長:石山喬氏)が選出した。宝金氏のほか、笠原正典理事・副学長・横田篤教授が候補者だったが、同会議委員の投票で宝金氏が過半数票を集め手となつた。

もともと合議で決定する予定だったが、決めきれず投票に。会議は約4時間に及んだという。

## 9月号

<編集・発行>

北海道大学新聞

編集部

<URL>

[hokudaishinbun.com](http://hokudaishinbun.com)

(お問い合わせ・情報提供  
もこちらから)

次の発行予定は 11月

## CONTENTS

・北大生協、8月は客数6割減

：2面

・ニュースダイジェスト

：2面

・北大のコロナ研究（特集）

：3面

・周庭氏逮捕に北大教員ら抗議

：2面

・北大のコロナ研究（特集）

：2面

・理系学部の男性教授は「公

現通り指定国立に必ず採択



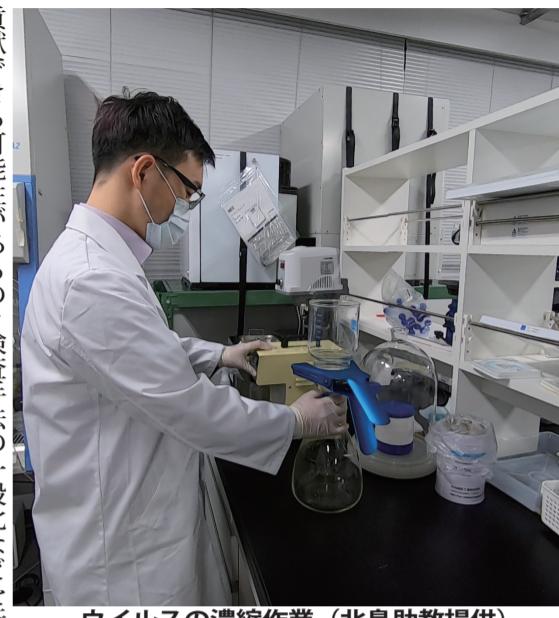
&lt;特集&gt;

# 北大の新型コロナ研究



## 下水からコロナ流行の兆候をつかむ

工学研究院 北島正章助教



ウイルスの濃縮作業（北島助教提供）

北島正章助教は、下水中の新型コロナウイルスを検査する手法とその活用について研究を行っている。北島助教の専門は環境ウイルス学で、下水などの水の中のウイルス、特にノロウイルスなどの腸管系ウイルスの検出や検出法、そしてそのデータから感染流行状況を推定することやウイルスのリスク評価を普段研究対象としている。新型コロナにもこの手法を用いて流行状況を把握することなどを目指しており、感染拡大防止につながる可能性や、流行収束の判断材料としての活用が期待されている。

下水中の新型コロナについて調査を始めたのは3月初め。それ以前から新型コロナについては論文などで情報を得ていたが、最初は呼吸器系のウイルスであることから下水疫学的なアプリケーションができるとは思っていなかつたという。

しかし次第に、新型コロナ感染者の糞便からウイルスが検出されたなどの研究報告が始めた。

「下水疫学から感染制御に

ない」と同助教は話す。

新型コロナの調査が難しいのは今まで扱ってきたウイルスと構造が異なるほか、ウイルス濃度も高くないからだ。本来腸管で増えるウイルスではなく、感染者数が通常流行するものに比べ少ないため濃度が低くなってしまう。

そもそも、下水中のウイ

ルスなど病原体の検出は、

様々な排水や雨水が混じる

ことで希釈されてしまつた

ウイルスの濃度を高めたた

めの濃縮法とPCR法をは

じめとした検査法を組み合

わせて行う。しかし今まで使われてきた濃縮法と検査

法の組み合わせのなかには、

上手く検出できないものも

あることから、様々な方法

を試し新型コロナに適した

検査方法の確立を目指して

いる。

豊嶋崇徳教授は、新型コロナ感染の有無を確かめる

PCR検査について、唾液

による検査が従来指定され

ていた鼻咽頭のぬぐい液（ス

ワブ）による検査と同等の

精度を持つことを確かめ、

認可につなげた。唾液によ

る検査では、スワブ採取に

伴う医療従事者への感染リ

スクが無くなる。

豊嶋教授が唾液による検

査が可能ではないかと考え

始めたのは4月に来院した

ある患者のPCR検査を

実施共同研究グループは4月

末に下水中の新型コロナに

関する総説論文を世界で初

めて発表し、その後も検査

手法の確立につながる研究

成果をあげてきた。

検査手法の一般化などを目

指して、感染拡大防

止につながることや、感染

収束の判断材料として活用

ができるようになることなど

を挙げた。

豊嶋崇徳教授は、新型コ

ロナ感染の有無を確かめる

PCR検査について、唾液

による検査が従来指定され

ていた鼻咽頭のぬぐい液（ス

ワブ）による検査と同等の

精度を持つことを確かめ、

認可につなげた。唾液によ

る検査では、スワブ採取に

伴う医療従事者への感染リ

スクが無くなる。

豊嶋教授が唾液による検

査が可能ではないかと考え

始めたのは4月に来院した

ある患者のPCR検査を

実施共同研究グループは4月

末に下水中の新型コロナに

関する総説論文を世界で初

めて発表し、その後も検査

手法の確立につながる研究

成果をあげてきた。

検査手法の一般化などを目

指して、感染拡大防

止につながることや、感染

収束の判断材料として活用

ができるようになることなど

を挙げた。

豊嶋崇徳教授は、新型コ

ロナ感染の有無を確かめる

PCR検査について、唾液

による検査が従来指定され

ていた鼻咽頭のぬぐい液（ス

ワブ）による検査と同等の

精度を持つことを確かめ、

認可につなげた。唾液によ

る検査では、スワブ採取に

伴う医療従事者への感染リ

スクが無くなる。

豊嶋教授が唾液による検

査が可能ではないかと考え

始めたのは4月に来院した

ある患者のPCR検査を

実施共同研究グループは4月

末に下水中の新型コロナに

関する総説論文を世界で初

めて発表し、その後も検査

手法の確立につながる研究

成果をあげてきた。

検査手法の一般化などを目

指して、感染拡大防

止につながることや、感染

収束の判断材料として活用

ができるようになることなど

を挙げた。

豊嶋崇徳教授は、新型コ

ロナ感染の有無を確かめる

PCR検査について、唾液

による検査が従来指定され

ていた鼻咽頭のぬぐい液（ス

ワブ）による検査と同等の

精度を持つことを確かめ、

認可につなげた。唾液によ

る検査では、スワブ採取に

伴う医療従事者への感染リ

スクが無くなる。

豊嶋教授が唾液による検

査が可能ではないかと考え

始めたのは4月に来院した

ある患者のPCR検査を

実施共同研究グループは4月

末に下水中の新型コロナに

関する総説論文を世界で初

めて発表し、その後も検査

手法の確立につながる研究

成果をあげてきた。

検査手法の一般化などを目

指して、感染拡大防

止につながることや、感染

収束の判断材料として活用

ができるようになることなど

を挙げた。

豊嶋崇徳教授は、新型コ

ロナ感染の有無を確かめる

PCR検査について、唾液

による検査が従来指定され

ていた鼻咽頭のぬぐい液（ス

ワブ）による検査と同等の

精度を持つことを確かめ、

認可につなげた。唾液によ

る検査では、スワブ採取に

伴う医療従事者への感染リ

スクが無くなる。

豊嶋教授が唾液による検

査が可能ではないかと考え

始めたのは4月に来院した

ある患者のPCR検査を

実施共同研究グループは4月

末に下水中の新型コロナに

関する総説論文を世界で初

めて発表し、その後も検査

手法の確立につながる研究

成果をあげてきた。

検査手法の一般化などを目

指して、感染拡大防

止につながることや、感染

収束の判断材料として活用

ができるようになることなど

を挙げた。

豊嶋崇徳教授は、新型コ

ロナ感染の有無を確かめる

PCR検査について、唾液

による検査が従来指定され

ていた鼻咽頭のぬぐい液（ス

ワブ）による検査と同等の

精度を持つことを確かめ、

認可につなげた。唾液によ

る検査では、スワブ採取に

伴う医療従事者への感染リ

スクが無くなる。

豊嶋教授が唾液による検

査が可能ではないかと考え

始めたのは4月に来院した

ある患者のPCR検査を

実施共同研究グループは4月

末に下水中の新型コロナに

関する総説論文を世界で初

めて発表し、その後も検査

手法の確立につながる研究

成果をあげてきた。

検査手法の一般化などを目

指して、感染拡大防

止につながることや、感染

収束の判断材料として活用

ができるようになることなど

を挙げた。

豊嶋崇徳教授は、新型コ